

府中町ふるさと歴史散歩

〔第26回〕

文化財としての地名⑧ 昭和初期の町内会名(3) 中郷(砂原)

昭和初期の頃の字名(15の町内会名、辻・中郷(砂原)・石井城・江本寺・御衣尾・五反田・山田・大崎・市・沖尾首・八幡・浜田・茂陰・鹿籠)は古い歴史に基づいた所が多く、現在も生き続けている。

今回は、北部の地域の1つである「中郷(砂原)」について考えていくこととする。

(3) 字 中郷(砂原)

「この地は(府中町が)国府として繁盛を極めた時代には、辻地区(現在の本町一丁目・三丁目を中心とする地域)に連なり、繁華の中心地として、いわゆる中郷と称していた。その後、榎木川上流の森林伐採を行ったことにより山肌が露出し、雨が降るたびに花崗岩が崩れ砂状となつてしまひ、たびたび洪水が発生し、辻地区と同様に土地、家屋の

流失が繰り返し起こり、昔の面影を失つてしまった。天保7年の洪水の際には、この集落は一面全体が砂の原となつてしまったため、この頃から「砂原」と呼ばれるようになった。

(菅原守編『芸州府中荘誌』から筆者が口語編訳したもの) 天保7年(1836年)6月11日から12日にかけての大洪水では、府中町内の全ての河川が氾濫したと言われている。この地域は榎木川と山田川の合流地点でもあり、特に被害が大きく、この時以来、「中郷」地区を「砂原」と呼ぶようになったといわれる。

砂原地区は現在の住居表示で本町三丁目の大部分と本町四丁目・本町二丁目の一部を含む範囲である。辻地区と同じように府中の中心であったこの場所は、戦後から多くの

住宅が建てられている。昭和29年頃に撮影した写真(写真①)にも多くの住宅が撮影されている。

また、この地区には胡神社と総社跡がある。総社とは国司が国内の諸神社を巡拝する代わりに、国中の神霊を合祀した神社で平安時代末頃の建立と思われる。府中北部の氏神社として春祭、秋祭、流鏝馬などできわつたが、安芸郡の地に造営されながら長くその所在がわからなくなつていた「多家神」をめぐる松崎八幡の氏子との争いが絶えず、明治7年(1874年)松崎八幡とともに廃社とされ、多家神社に合祀された。現在跡地は公園として整備され、石碑が残る。また、公園内にはコミュニティセンター総社会館が平成3年に建設されている。

府中町文化財保護審議会委員

熊野俊浩

問い合わせ

教育委員会生涯学習課

☎ 286-3272



写真① 寺山(現在の山田一丁目付近)から砂原・石井城方面を撮影したもの



写真② 写真①と同方向を撮影したもので平成元年頃の写真、城ヶ丘の団地が見える



写真③ 総社跡 昭和40年代に撮影されたもの



写真④ 総社会館 (コミュニティセンター)



現在の砂原町内会